

おいでって言うんだろうね（お兄ちゃんが笑ったところで止めて聞く）。
皆は、お友達はお家にいないときはどうする？

A. お友達のお家に遊びに行っても、お友達がいないときはお家に入らないでそのまま帰ろうね。それとお友達のお家に行くときは、必ずパパやママに話してから行こうね。

(4) 優しいおじさんに抱っこ

Q. どうしておじさんに絵本を読んでもらっているのに、全然楽しそうにないんだろうね（「もう絵本はいい、ママに読んでもらうから」というセリフの後で止めて聞く）。

皆だったらどんな気がする？もし、こういうことをされたら、どうすればいいと思う。

A. みんなの身体は、大切な一人一人の身体です。もし知らない人だけでなく、知っているおじさんやおばさん、またはお兄さんやお姉さん、学校の先生等、あなた以外の方がパンツの中に手を入れ、気持ち悪い触り方をした場合は、「やめて」と言うのよ。それでも止めてくれない場合は、ママやパパ等、皆が一番信じられる大人にそのことを話してみんなの身体を守ってもらおうね。皆は絶対悪くないからね。変なことをする人が絶対悪いからね。

〔路上〕

(5) 道を教えたらなんじゃコリャ！

Q. この中で道を聞かれたことのある人？どんな風に聞かれた？皆も道を聞かれて、おちんちんをポロっ

んてされたらどんな気がする？

A. 道を聞いてくる人がみんな変な人で、変なことをしないよね。だけど中には、やっぱりおちんちんをポロってする人もいるから、知らない人に道を聞かされたら、余り近づきすぎない。直ぐに走って逃げられる距離を保ってね。

(6) 危険なドライブ

Q. 皆は車から声をかけられたらどうする？知っているお兄さんに誘われたときはどうする？

A. 知らない人が車に乗せてあげるよといっても、絶対乗ったら駄目だよ。知っているおじさんやお兄さんでも、パパやママが知らないところで黙って車に乗っていったら駄目だよ。必ず、パパやママに言ってから、許可をもらってからにしようね。

〔ショッピングセンター〕

(7) トイレは2人仲良く

Q. 買い物に行ったときに、トイレに一人で行く人？

このおじさん、何をしようとしているんだろうね（おじさんが男子トイレから出てきて、女子トイレに入ろうとしているとことで止めてから質問する）。

みんな、トイレにおじさんが入ってきたらどうする？どんな気持ちがる？

A. 人がたくさん集まるショッピングセンターや遊園地などの場所は、多くのトイレが建物の隅っこにあるよね。また公園などのトイレも人通りの少ない場所にあるよね。そういっ

た場所のトイレにはママやパパと
いっしょにトイレに行こうね。とく
によるは、絶対1人では行かないで
ね。必ず一緒に行くか、お外で待つ
てもらおうね。

〔公園〕

(8) お友達を救え

- Q. みんな、知らないおにいちゃんがお
友達を連れて行ったらどうする（お
兄ちゃんがお友達の手を引いて歩
いていくところで止めて質問する）。
- A. お友達が知らない人に連れて行かれ
たら、直ぐに近くにいる大人の人に
知らせようね。大声を出して知らせ
てもいいよね。間違っても、子供だ
けであとをつけていったら駄目だ
よ。子どもの力は弱いから、危ない
からね。

(9) お菓子を買ってあげるよ

- Q. みんなが正人ちゃんだったらどんな
気持ちがする？
- A. そうだよ。正人ちゃんは絶対に悪
くないよね。悪いのは、正人ちゃん
の嫌がることをしたおじさんだよ
ね。もしみんなも正人ちゃんにみた
いに、誰かに嫌がることをされたら、
お母さんかお父さん、または学校の
先生等、みんなが話しやすい人に相
談しようね。

以上が、本教材の指導ポイントである。
これらの内容を、本教材を用いることで
子ども達の理解を促していく。また教材
のプログラムは、一時停止ボタンがつい
ているために、其々の場面を自由に止め

ることができる。指導者が伝えたい内容
に応じて場面を一時停止し、そこで子ど
もに考える時間を設定する。そして子ど
もが考えながら、どうすれば性暴力が予
防できるのかを理解していくことを目的
としている。

C. 児童参加型性被害予防教育教材を用 いた指導と、それに対する子どもの反 応

平成16年1月、広島県内にあるM小学
校において、前述した性被害予防教育教
材を用いて性犯罪の防止に向けた指導を
行なった。対象者は小学2年生56人（1
クラスずつ、2回実施）を対象に、児童
参加型性被害予防教育教材を用いて45
分間の指導を行った。

指導直後に、アンケート調査の実施と
子ども達に感想文を記入してもらい、翌
日回収した。分析は、アンケート調査は
単純集計を行い、感想文は子ども達が書
いた内容をカテゴリー化し、明らかにし
た。

1. 教材で示した内容についての子ども の理解

その結果、指導前は変なことに関する
内容が、「声かけ」「誘拐する」「殺す」等、
ニュースで報道される内容のみであり、
変な人に関しても「サングラスとマスク
をかけた人」「車から声をかける人」「子ど
もをナイフで刺して殺す人」という答え
であった。だが指導が終わった後に答え
たアンケート調査では、56人中49人か
ら回答を得ることができ、その内容はよ
り具体的で詳細になっていた。また図1
に示す様に、アンケートにあった、①「変

なことをされたらどうしたらいいか分かったか」については、「よく分かった」32人、「分かった」17人、②「変なことをされそうになったらどうしたらいいか分かった」については、「よく分かった」35人、「分かった」14人、③「変な人に出会ったらどうしたらいいかわかった」については、「よく分かった」34人、「分かった」13人、④「変な人がする変なこ

とはどんなことかわかった」については、「よく分かった」31人、「分かった」18人、⑤「変な人はどんな人か分かった」については、「よく分かった」41人、「分かった」8人であり、それぞれの項目で、ほぼ全員の子どもが「よく分かった」または「分かった」と答え、教材を用いた説明内容をよく理解していたといえる。

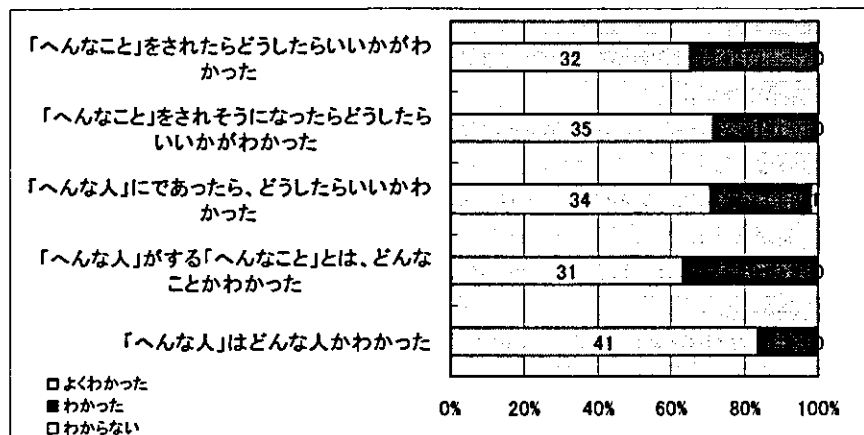


図1. 指導内容に対する子どもの理解-アンケート調査から-(N=56人)

以上、多くのこどもは教材をみることで、「変なこと」や「変な人」がどういったことを言うのか、具体的に理解していたといえる。

2. 子どもが分かったと答えた項目数

次いで、子どもが分かったと答えた内容をみた場合、提示している10の内容のうち、一体いくつの内容が理解できたのか、その数を明らかにした。

その結果、子どもが分かったと答えた内容は2つの項目が最も多く、19人が分かったと答えていた。次いで、3項目14

人、4項目11人、1項目6人であり、分かったと答えた内容は4項目までが最も多かった。なかには9項目以上の内容が分かったと答えた子どもが2人いて、本教材で示している内容以外にこども自身で考えた内容も感想文に書いていた。例えば「他人に優しくする」「虫を殺さない」等、友人を大切に思いやる気持ちや生命に対する思いやりを感じさせる文章があった。

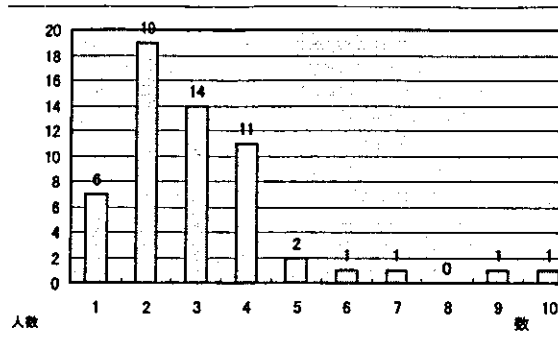


図2.分かったと答えた内容の数-感想文の分析から-(N=56人)

3. 子どもが分かったと答えた内容

(1) 指導直後の反応

指導直後に子どもが分かったと答えた内容を具体的にみた場合、最も多かったのが「トイレに一人で行かない」24人であり、次いで「知ったおじさんでもついていかない」21人、「悪い人はどこにでもある」18人、「道を聞かれたら距離をとる」17人、「お友達がいなときは家に入らない」17人、「どうやって逃げるのか分かった」13人、「直ぐに大人に助けを求める」11人、「人が嫌がることをしない」10人であった。講義前に子どもたちが答えていた変なことについての内容、例えば「誘われても車に乗らない」6人、「公園で一人で遊ばない」2人であり、指導前に答えていた既存の知識よりも、今回の教材を見ることで子どもたちが印象に残ったことまたは新しく学習したことを「分かった」と答えていた。

(2) 指導1カ月後の反応

教材を用いた指導後、1カ月たってから再度子ども達に「どういったことに気をつけるようになったのか」を聞いて、作文をしてもらった。その結果、「遊ぶとき、外出時、登下校時は1人にならない」39人、「人や車に気をつける」34人、「トイレに1人で行かない」32人、「寄り道をしない」16人、「知ったおじさんでも

ついて行かない」15人、「道を聞かれたら距離をとる」15人、「大人に助けを求める」10人であった。つまり子ども達は、複数で行動をとるにしながら、人や車に気をつける行動をしていると答えており、指導直後の理解した内容をもとに、実際に身を守る意識を持って行動を変化させていたといえる。

これは具体的に、性暴力の内容を学ぶことで、それを防止する方法を子ども達自身で考えることにつながり、実際の行動の変化を促したと考えられる。

以上、本教材を用いて小学2年生を対象に行った指導に対する感想を明らかにした。その結果、指導前の子ども達が答えた性暴力の理解は、テレビ等で報道されている人物像と車による誘拐のみであった。指導後はその内容がより具体的になり、多様な性暴力のあり方を理解していたといえる。また指導直後と指導1カ月後を比較しても、その内容が極端に減少することはなかった。そして子どもは、自分で身を守る方法を意識して行動を変化させていたのである。つまり小学2年生であっても、性暴力に対する認識を持つことは可能であり、性暴力の被害から身を守る危機管理意識を育成できるといえる。

表1.子どもが分かったと答えた内容-実施直後の感想文の分析から(重複回答) N=56人

内 容	人数
トイレに1人で行かない	24人
知ったおじさんでもついていけない	21人
悪い人はどこにでもいる	18人
道を聞かされたら距離をとる	17人
お友達がいなくてときは家に入らない	17人
どうやって逃げるのか分かった	13人
直ぐに大人に助けを求める	11人
人が嫌がることをしない(スカートを上げる)	10人
・電気アンマンをしない(パソの中は大切) 7人	
・誘われても車に乗らない 6人 ・公園で1人で遊ぶまい 2人	

表2.教材を用いた指導効果-1ヵ月後の子どもの反応-(重複回答) N=56人

気をつけるようになったこと	人数
一人づならない(遊ぶとき・外出時・登下校時)	39人
人や車に気をつける	34人
トイレに1人で行かない	32人
寄り道をしない(行き先を告げる)	16人
知ったおじさんでもついて行かない	15人
道を聞かされたら距離をとる	15人
大人に助けを求める	10人
・お友達がいなくてときは家に入らない 7人 ・電気アンマンをしない 7人	
・防犯ブザーを鳴らす 4人 ・その他 5人	

D. 結語

最近では学童期の児童を対象にした性犯罪が急増し、新聞などを通じて多数報道されている。その一方で、性的被害を受けた子ども達に対する支援体制は不十分であるという。また保護者を含む周囲の大人たちも、子どもの性犯罪が身近なものとして存在していることを十分に認識しているとは言いがたい。今回、子ども達と一緒に参加した保護者からも、「どういった状況を性暴力または性犯罪なのか、また誰が加害者になるのかという認識が不足していた」という感想文が多数あった。

性被害にあった子どもへの支援体制が不十分な現状を考えれば、できるだけ子ども達が性被害を受けないように、性犯罪の防止対策が急務である。それには子ども自身が多様な性暴力の状況を理解したうえで、自分の身を守る知恵をつけることも大切であると考え。今回作成した児童参加型性被害予防教育教材は、子どもが自分で危険を回避する方法を学ぶと同時に、性の人権意識を促す役割も果たすものであると期待している。

参考文献

- 「子どもと家族の心と健康」調査委員会、
「子どもと家族の心と健康」調査報告書、1999.
- 鈴井江三子、下見千恵、平岡敦子他、若者が受けた性的嫌がらせの経験と心理的状态母性衛生、44(4)、401-406、2003.
- 朝日新聞朝刊、にっぽんの安全、2004年1月7日(水).
- 戒能民江、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から見た「女性に対する暴力」、メディカ出版、1998、17、240-241.
- 井上摩耶子、性暴力のサバイバー支援ー心理的サポートー、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、メディカ出版、1998、251-252.
- 中国新聞朝刊、少年犯罪防止へチーム、2004年2月17日(火).

第2項 助産師による性教育効果の検討（中学生）

エス・アール・ハウス

番内 和枝

A. はじめに

思春期の子どもたちへの性教育は、小学校、中学校、高等学校と、文部省から出される性教育指導指針（手引きなど）をもとに、それぞれの学校の状況に合わせて実施されている。

しかし一言に性教育といってもその内容は、解剖、生理学から始まり性機能、男女交際や男女の性心理、妊娠・出産などを含む生命の尊重など多岐にわたることから、最近では医師や看護職、心理療法士、性教育を専門とする教師など、さまざまな分野の専門家が参加する機会も多くなった。

今回、助産師が関わった性教育の感想を分析し、①助産師職が性教育の中で伝えなかったことがどのように伝わったか。（効果）②助産師職はどのような内容で性教育に参加できるか、の2点について分析した。

B. 調査（分析）方法

S県内中学校4校の中学生に対してから送

付された講演後の感想文 61人分について分析した。

講演の期間は平成16年7月から11月で、講演の時間は45～50分である。

講演の内容は、学校側との話し合いにより、ほぼ4校に統一した内容で実施したが、(表1)「自他の生命の大切さを再認識できる」「思春期の性の発達の再認識ができる」「性役割や性行動の自己決定ができる」「自己肯定感情（自尊感情）の引き上げ」「正しい性情報の獲得の方法がわかる」などを共通の目標とした。

講演の方法は、100人から250人の集団教育で、場所は体育館、多目的教室などを使用し、スライドや著名人の詩、生殖器図(ボードへの手書き)を媒体として使用した。

調査方法は、自由記述方式の感想文を使用。分析方法は単純集計と、記述内容に関する質的分析方法を用いた。なお質的分析の際には、KJ法を使用した。

表1 講演の内容

	内 容	使用教材
1	助産師の仕事紹介 出産の場面における母親・家族の姿の説明	スライド—出産場面のもの
2	生命のつながりについて 詩の朗読—自分の番—	詩—あいだみつお氏作を使用
3	思春期の性生理 第二性徴(男・女)・妊娠の成立・	スライド・ホワイトボード—生殖器図
4	望まない妊娠と人工妊娠中絶	厚生労働省統計資料
5	いのちを大切に	
6	助産師からのメッセージ—いのちを大切にする3項目	

C. 結果

1. 調査対象者の背景

調査対象者は中学校に在籍中の1年生から

3年生61人である。年齢は12～14歳で平均年齢13.5歳であった。

2. 感想文の分析 (表2)

感想をまとめると「出産の大変さがわかる」とともに、出産後の母親の笑顔がステキ・印象的「親を大切にしないといけないと思った」「生んでくれた母親と見守ってくれた家族に感謝」などの「出産や家族のことについて考えた」ことが最も多く、61人中50人(82.0%)が書いていた。

次いで「生命(自分も含めて)の大切さや尊さを学んだ」「自分を大切にしたい」「もっと自分を好きになるように、良いところをたくさん見つけたい」「いろいろな悪い誘惑に負けないようにしたい」など「生命の大切さについて考えた」人は45人(73.8%)で、「自分の行動に責任を持たないといけないと思った」「やっていいこと悪いことがあることがわかった」「自分の考え方がいかに幼かったかがわかった」「まわりに流されないようにしたい」などの「性役割や行動について考えた」

人が24人(39.3%)であり、将来の行動の方向性について書いていた。また、「正しい性知識が必要なことや講演の内容が良くわかった」など「性知識や講演の内容に関すること」は22人(34.4%)が書いていた。

これらのことから、助産師が担当することで中学生の子どもたちに伝えられることは、妊娠、出産の現場の話を通して、①新しい生命を生み出す苦しみとともに家族の喜びや感動が伝えられる。②自他の生命の大切さを再確認させ、生きる勇気と自分自身の存在に対する自信を持たせられる。③男女それぞれの性役割と、行動の自己選択、自己決定に伴う責任について理解させることができる。④これからの人生を生きる上で性に関する正しい知識が必要なことを理解させることができる。の4項目に分類された。

表2 講演後の感想

	記 載 内 容	数
1	出産や家族のことについて考えた	50
	・出産の大変さがわかった	17
	・出産後の母親の笑顔がステキ・印象的	11
	・親を大切にしないといけないと思った	5
	・生んでくれた母親と見守ってくれた家族に感謝	5
	・母は強い(すごい)と思った	5
	・赤ちゃんの能力のすごさを感じた(自分もそういう能力を持っていたと思うと不思議)	4
	・兄弟ができるってうれしいことだと思う	2
	・家族に見守られて出産するのは安心	1
2	自他の生命の大切さについて考えられた	45
	・生命(自分も含めて)の大切さや尊さを学んだ	27
	・自分を大切にしたい	5
	・もっと自分を好きになるように、良いところをたくさん見つけたい	3
	・いろいろな悪い誘惑に負けないようにしたい	3
	・人工的に子どもを殺してしまうなんてよくない(中絶手術のこと)	2
	・生命の神秘を感じた。生命の誕生はすばらしい	2
	・生まれてきたことをうれしく思う	1
	・簡単に自分の命を粗末にしたら生んでくれた母親に申し訳ない	1
	・たった一つの命だからしっかり自分の道を進みたい	1

	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの命が受け継がれて今の自分があることに誇りを持ちたい ・自分の命は自分だけのものではないと思った ・人は奥深い生き物 ・自分たちは幸せだと感じた 	<p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>
3	性行動、性役割、行動について考えた	24
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動に責任を持たないといけないと思った ・父親になったら、妻と子どもにしっかりと責任を持ちたい (自分のため、パートナーのために幸せな環境を作り出せる立派な男になりたい含) ・3つの約束を絶対に守りたい ・自分の考え方がいかに幼かったかがわかった ・まわりに流されないようにしたい(しっかり前を見て歩いていこうと思う) ・子どもを育てる自信がないから、私は大人になって子どもを産むつもりはなかった。 でも、今からいろいろ頑張って、少しでも自信をつけたいなあとと思った。 ・子どもをつくるのは育てられるか良く考えてから ・どんな現実も受け入れられるような愛情を持っていきたい ・やっていいこと悪いことがあることがわかった 	<p>11</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>
4	性知識に関すること—22人—	22
	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい性知識が必要(大切)なことを学んだ(間違った知識が広まることは不安含) ・授業では聞けないことを聞くことができた(知らなかったことがわかった含) ・説明がわかりやすく良く理解できた(人生にいい話だった含) ・男女の違いの写真は最初気持ち悪かったけれど先生の話を聞いているうちに気持ち悪くなくなっていた。 	<p>15</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>1</p>

D. まとめ

今回の分析に使用した感想文は、受講した生徒全員のものではなく、学校側が選択して送ってきたものを使用したために、内容の理解度や生徒の中の何パーセントが理解できているかなど、全体の比較検討はできなかった。また、講演に対して良い感想が書かれていたものがほとんどであり、否定的な感想は入っていなかった。

今回の感想文を分類、分析することで、助産師はその職能を生かして「自他の生命尊重」「生命のつながりと家族」「性行動の選択と責任」などのメンタルな分野に関与できることが明らかとなった。

また時間制限や受講人数の問題もあり、性知識の細かい点まで提供することは難しいが、正しい性知識を得ることの重要性やどこで得

ることが適当か、情報の提供場所などについては伝えることができたと考えられる。

思春期の体の変化、特に性機能についても話しているが、感想の中にはあまり入っていないことから、今回のような短い時間の指導(講演)では、「思春期の体の変化」や「性機能」「避妊の方法」などの、性に関する十分な知識を提供することには無理があると感じた。これらのことは集団教育ではなく、小集団による知識教育として十分な時間をとって提供することが必要と考えられる。その中に生命が誕生する現場に関わる者として、助産師が参加する意義は大きいと考えられる。

最後に効果判定の分析には入らなかったが、講演を実施した中のひとつの学校で独自に「未来の自分に一言」というメッセージを書かせており、子どもたちの素直な気持ちが表出されていたので表3に原文のまま紹介する。

表3 未来の自分に一言（3年生28人分から：原文のまま）

【男子】

・正しいことを学び、正しい知識を身に付けてください。
・自分の行動に責任を持って生活してください。②
・相手のことを考えるようになりたい。
・ちゃんとした大人になってください。やっていいことと悪いことを考え行動をしてくれるといいです。
・責任を持って信頼できる相手と付き合って、たった一つの命を大切にできるようにしたい
・将来、性行動をする時は、相手のこともしっかりと考えられるようになっていくかどうか判断してください。
・妻や子どものことを思えるような立派な父親になってください。
・赤ちゃんが生まれることが、一つの幸せになるように頑張ってください。
・自分をコントロールできる男になります。
・経済力や責任感をしっかり持って生活していて欲しい。自分のことをよく自覚しながら生きていてほしい。間違っただ道に進んでいないで欲しい。
・性的な行為は、一歩間違えると大変なことになってしまうので、しっかりと考えてから行うようにしてください。
・ちゃんとした情報を掘み取って欲しいと思いました。苦勞もあるけどそれに負けず頑張ってください。
・犯罪や万引きなどをしないで、社会のルールを守っている！
・他人に何を言われても、いやなことはいやだと言えるようになってほしい。自分が愛した人をちゃんと大事にしたい。

【女子】

・子どもを産むことはとても大変だけれど頑張ってください。
・清く正しく、節度ある、いい女になっていることを願います。
・望まない妊娠は絶対したくありません。そのために今から正しい知識を身に付けておきます。
・過ちをおかすことのないように、正しい知識と判断力を持ってほしいと思います。
・今日学んだことをしっかりと覚えていて、勇気を持ち、自分のことをちゃんと考えている人でいて欲しいです。
・自分を大切に生きて欲しい。やっていいことと悪いことをちゃんと意識して欲しい。
・今のことだけでなく、将来のことも考えてこれから生きて行きたい。
・これから先、いろいろな誘惑があるかもしれないけれど、自分自身を信じ勇気を持って行動して欲しいです。
・未来の私はしっかり相手のことを考えてくれる大人であって欲しいです。もし子どもが生まれたら、その子は望んで生まれてきた子であるといいです。愛を大切にできる大人であるように・・・。
・もっと自分を大切にしていけば、もっといつか幸せがくる。あまり汚い女にはならないように気をつけて、強い女になれ！自分ならばできる！！
・自分の行動に責任を持って、体と気持ちを大事にして欲しい。
・未来はどんなかわからないけど、健康で元気な子どもを産んでくれたらいいです。ちゃんと結婚してよい家庭を築いていけたらいいと思います。
・ちゃんと、本当に人を好きになることはできていますか？本当に好きな人の子どもを産んでください。てかむしろ25歳まで子どもは産まないでください。自分に自信がもたら子どもは産んでもO.Kです。
・責任ある行動を取れるようにしましょう！！未来のこと、しょうらいのこと、しっかりと考えてから行動しましょう！！
・結婚して、お互いが本当に信頼しあったときに子どものことは考えて欲しいです。大切にしてくれる良い人とめぐり合っているとイイな。

参考文献

文部省：学校における性教育の考え方，進め方，1999，8.

光本恵子他：高校生の性知識と情報源に関する調査，思春期学 Vol.22 No.3 2004

第3項 高校生における性教育前後の意識の変化

社団法人日本助産師会大分県支部性教育研究会

林猪都子 安倍本子、宮崎文子、吉留厚子、小西清美

A. はじめに

近年、わが国の若者における初交体験の低年齢化、10代の人工妊娠中絶の上昇、クラミジア感染の流行は、世界の中で特異的な現象と言われている。

2002年に東京都で実施した児童・生徒の性意識行動調査の結果によると、性交経験率は、高校1年生女子で25.5%、1年生男子で24.8%、高校2年生ではそれぞれ40.9%、33.2%、高校3年生ではそれぞれ45.6%、37.3%であり、(東京都幼・小・中・高・心障性教育研究, 2002)性交経験率は1990年代から急激に増加しており、特に女子生徒の増加が著しい。

また、2003年による母体保護統計によれば、20歳未満の人工妊娠中絶数が4万475件となり、女子人口千対の人工妊娠中絶率は11.2(北村邦夫, 2004)と一昨年からわずかに減少しているものの、20歳未満の人工妊娠中絶率は相変わらず高率である。

厚生労働省の感染症発生動向調査によると性器クラミジア感染症の平成13年の年間報告件数は40836件(厚生労働省, 2001)で、年齢別でみると20歳~24歳の感染者が全体の約3分の1ときわだって高く、15歳~19歳の感染者は約20%を占めている。10代の感染者は1998年より増加傾向にある(十蔵寺新, 2004)。このように、思春期の若者を取り巻く社会環境はダイナミックに変化しており、わが国の思春期リプロ・ヘルス対策は効果的な結果を得ているとは言いがたく、子ども達の心に響く性行動変容に繋がる健康教育が必須となっている。

そこで、平成13年度より日本助産師会

大分県支部は、助産師による性教育研究会を立ち上げ、「いのちの出前講座」を行っている。今回は、高校1年生の性教育実施前後に質問紙調査を行い、性教育後の意識の変化と教育プログラムを検討した。

B. 社団法人日本助産師会大分県支部性教育研究会の活動の経緯

平成13年9月、日本助産師会大分県支部は、妊娠・出産に直接かかわる助産師の立場から、いのちの大切さや正しい性知識の普及、思春期からの健康管理について希望する学校や地域に講師を派遣する目的で、性教育研究会を立ち上げた。まず、会員は大分県における小学校・中学校・高校の「性教育の現状」について勉強会を行った。学校との連携として先ず養護教員によびかけ、各協力学校教員と話し合いを行い、性教育に対する生徒のニーズを調査した。そして、対象者への指導教案の作成と使用教材を検討した。プログラム開発の視点は命のたいせつさと体験学習を重視した。性教育研究会の代表者は、小学校、中学校、高校、地域の保護者から性教育の依頼があれば依頼者との事前打ち合わせを綿密に行い、講師を派遣している。更に、生徒への性教育実施後の相談は思春期電話相談窓口を設置し、性教育研究会の助産師が対応している。現在の性教育研究会登録者は助産師会員約40名で、開業、在宅助産師、教育関係、勤務助産師から構成されている。

C. 研究方法

1. 教育方法

今回、A高校1年生に「いのちの出前講座」を実施した。内容については表1に示す。教育方法は、1年生の7クラスを半分に分け2日間（1日目4クラス、2日目3クラス）を同時進行で行い、各教室毎に生徒40名を対象に50分間、性教

育を実施した。講師は助産師4名（同じ教育内容で行う）である。性教育後、学校側の要望で講堂において「沈黙の叫び」のビデオを鑑賞した。実施日は平成16年7月8日と9日である。

表1 いのちの出前講座内容(高校生)

テーマ：今を大切に生きる

目的：いのちの大切さや性の正しい知識を与えることで、性に対し肯定的な態度を育成し望まない妊娠や性感染症の防止をねらいとする。

項目	教育内容	時間	方法	講師	備考
1. 10代の性行動の現状	性交の動機 人工妊娠中絶 性感染症 性被害	10分	講義	助産師	・パワーポイントで作成した資料を生徒1人1人に配布 ・各クラス毎(40名)の講義
2. 人工妊娠中絶	人工妊娠中絶とは 母体への影響 注意事項	10分	講義	助産師	
3. 性感染症	性感染症とは 特徴・症状 病原菌と病気の場所	10分	講義	助産師	
4. 性を生きるとは	自分自身をよく生きる 相手をよく生かす 新しい命をよく生かす 性交の意味 望ましい性交の条件	10分	講義	助産師	
5. 避妊法	イヤと言えること コンドーム法 経口避妊薬 その他	10分	講義	助産師	
6. 思春期健康相談電話		1分	講義	助産師	
7. 沈黙の叫び		30分	ビデオ		・1年生全体(280名)を対象

2. 調査方法・対象

調査対象はA高校1年生280名とした。調査方法は平成16年6月（事前調査）7月8日、9日（事後調査）に、性教育を依頼された校長先生に研究の趣旨を説明し、

研究依頼を行い承諾を得た。調査は留め置き法とした。質問紙は研究者が教育内容に対応させて独自に作成した自己記入式調査票を用い、調査票を性教育前後に配布し、回答してもらった。配布方法はクラス毎に

各担任から配布してもらい、後日回収した。その結果、性教育前（以下教育前と称す）には 270 名（96.4%）、性教育後（以下教育後と称す）は 268 名（95.7%）から回収が得られた。分析対象者は教育前 270 名、教育後 268 名であった。

3. 調査内容

調査項目は性別、性行為に関心をもった時期、情報源、性行為を持つ動機、自分・相手の肯定感、「性」「妊娠」「人工妊娠中絶」「性感染症」のイメージ、「性感染症」の認知、交際の程度、避妊の必要性、性感染症の予防や避妊の相手との会話、妊娠時の行動、避妊法・避妊器具の理解、性について知りたいことの 13 項目である。

4. 分析方法

データ分析は解析ソフト SPSS 12 J を用いて、記述統計、単純集計を行い、2 個の独立した 2 群間の比較には Wilcoxon 検定を行った。

5. 倫理的配慮

質問紙は無記名とし、調査者が研究の趣旨、目的を施設代表者に説明し、調査協力を依頼した。施設代表者に調査の参加や中

断は自由であることを説明し、各クラスの担任から調査票を配布し、生徒の承諾者のみ回答をお願いした。また、調査は秘密を厳守し、結果はすべて統計的に処理、分析を行い個人が特定できないように配慮した。

D. 結果

1. 対象の属性

性教育実施前は、男性 86 名（31.9%）、女性 184 名（68.1%）であった。教育実施後は男性 83 名（31.0%）、女性 185 名（69.0%）であった。

2. 性教育前の性に関する意識

①教育前に性教育に関心をもったのはいつ頃ですかを 8 項目から問い、1 つを選んでもらった。全体で一番多かったのは「中学校 1 年生」で 51 名（19.0%）、次に「中学校 2 年生」で 45 名（16.8%）、「小学校 5.6 年生」42 名（15.7%）であった。

②性に関する情報はどこから得ていますかを 14 項目から複数回答で問うた。その結果を図 1 に示す。最も多かったのは「友人」177 名（65.6%）で、次に多かったのは「雑誌」85 名（31.5%）、「まんが」81 名（30.0%）であった。

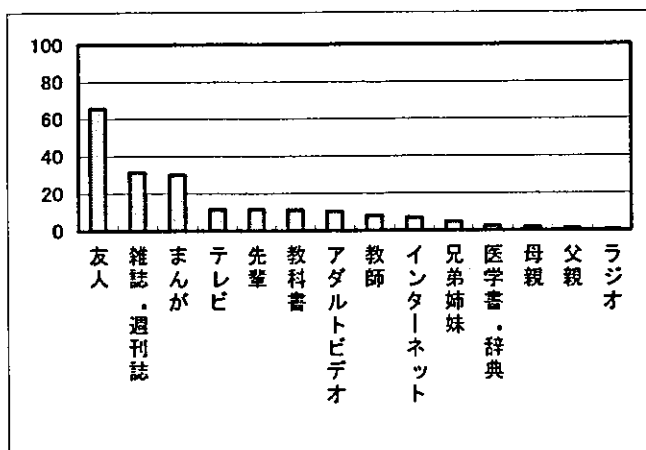


図 1 性に関する情報はどこから得たか

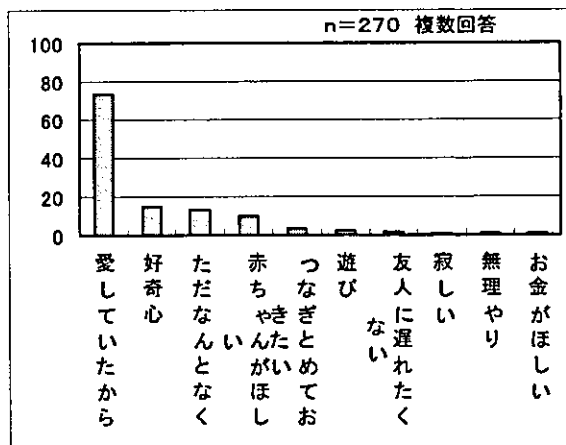


図 2 性行為を持つ動機

③あなたは性行為を持つとしたらどんな動機で
すかを 10 項目から複数回答で問うた。その結果
を図 2 に示す。一番多かったのは「愛していたか
ら」197 名 (73.0%) で、次に多かったのは「好

奇心」41 名 (15.2%)、「ただなんとなく」37
名 (13.7%) であった。

3. 自分・相手の肯定感

①教育前後に、自分のことをどのように思っ
ていますかを「好き」から「嫌い」までの 5 件法で
問うた。その結果を図 3-1 と図 3-2 に示す。性教
育前は「好き」25 名 (9.3%)、「どちらかといえ

ば好き」44 名 (16.4%) が、性教育後は「好き」
29 名 (11.0%)、「どちらかといえば好き」61 名
(23.1%) であった。教育前の平均得点が 3.10、
教育後の平均得点が 3.18 で、前後の有意差はみら
れなかった。

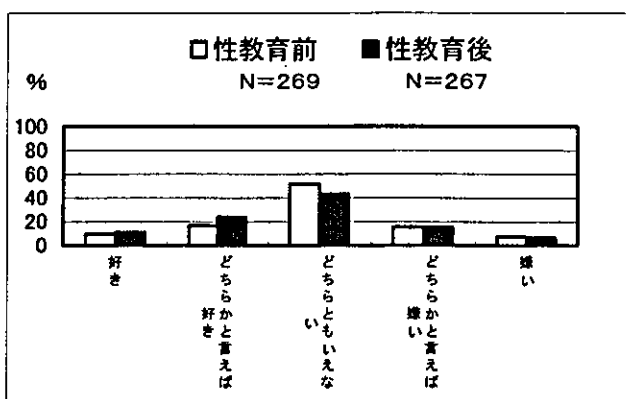


図 3-1 自分のことをどのように思っているか

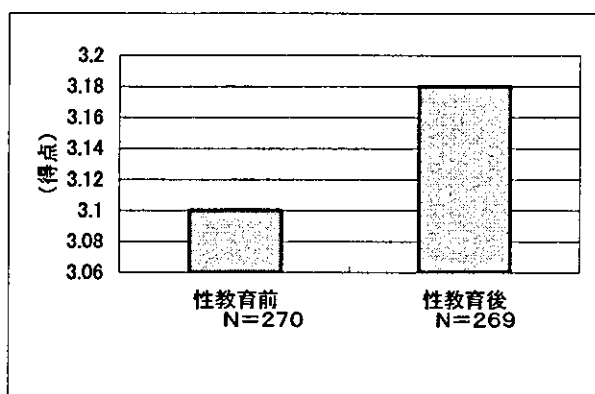


図 3-2 性教育前後の平均得点 (自分が好き)

②教育前後に、あなたは自分のことを大切に
していますかを「大切にしている」から「していない」
までの 5 件法で問うた。その結果を図 4-1 と図 4-2
に示す。性教育前は「大切にしている」56 名
(20.8%)、「どちらかと言えばしている」95 名

(35.3%) で、性教育後は「大切にしたい」145
名 (54.5%)、「どちらかといえばしたい」76 名
(28.6%) であった。教育前の平均得点は 3.68、
教育後の平均得点が 4.36 で、前後に有意な差がみ
られた ($p < 0.01$)。

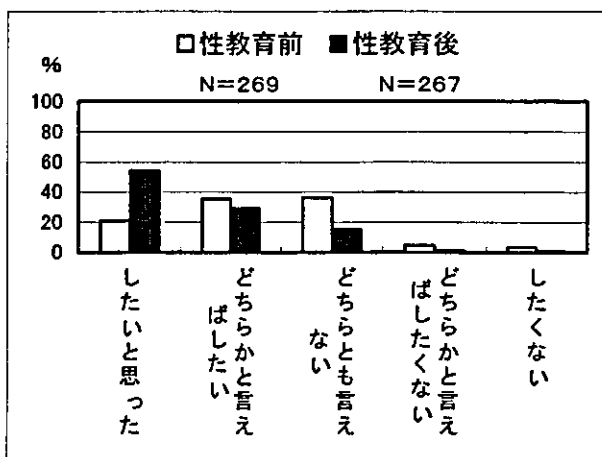


図 4-1 自分のことをたいせつにする

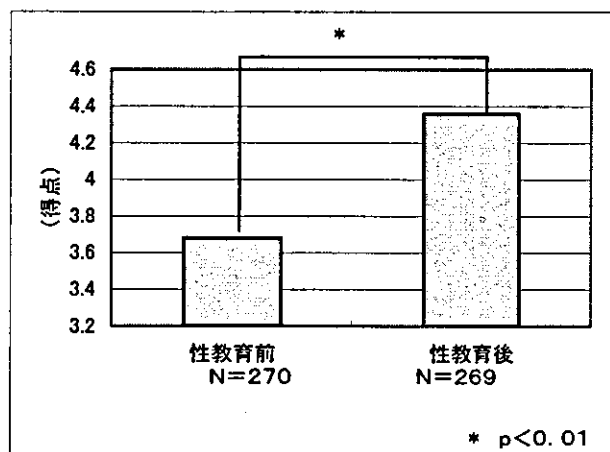


図 4-2 性教育前後の平均得点 (自分を大切に)

③教育前後にあなたは相手の気持ちを考えて行動していますかを「している」から「していない」までの5件法で問うた。その結果を図5-1と図5-2に示す。性教育前は「している」74名(27.5%)、「どちらかといえばしている」143名(53.2%)

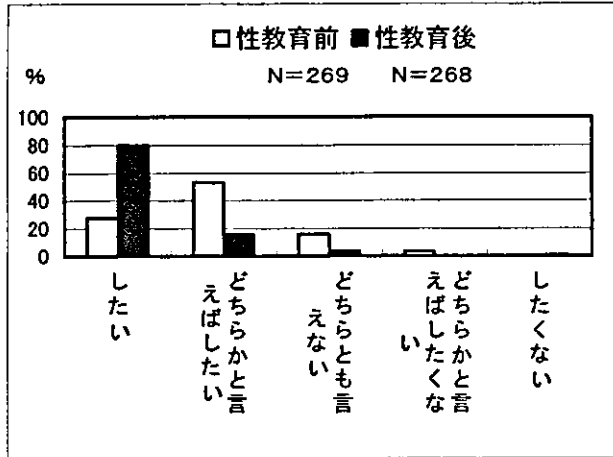


図5-1 相手の気持ちを考えて行動する

で、性教育後は「したい」213名(80.7%)、「どちらかといえばしたい」40名(15.0%)であった。教育前の平均得点が4.04、教育後の平均得点が4.75で、前後に有意な差がみられた(p<0.01)。

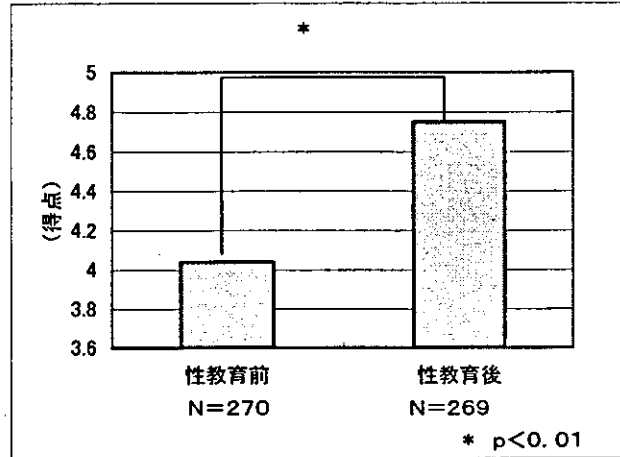


図5-2 性教育前後の平均得点(相手の気持ちを考える)

4. 性・生殖に関する言葉のイメージ

①あなたは性についてのどんなイメージもっていますかをプラスイメージとマイナスイメージを含めた18項目から複数回答で問うた。その結果を図6に示す。「よい」と答えたものは、教育前60名(22.2%)が、教育後73名(27.1%)、「悲しい」と答えたものは、教育前3名(1.1%)が教育

後18名(6.7%)と増加した。「恥ずかしい」と答えたものは、教育前67名(24.8%)が教育後44名(16.4%)、「興味がある」と答えたものは、教育前37名(13.7%)が教育後15名(5.6%)、「性交」と答えたものは、教育前51名(18.9%)が教育後34名(12.6%)と減少した。

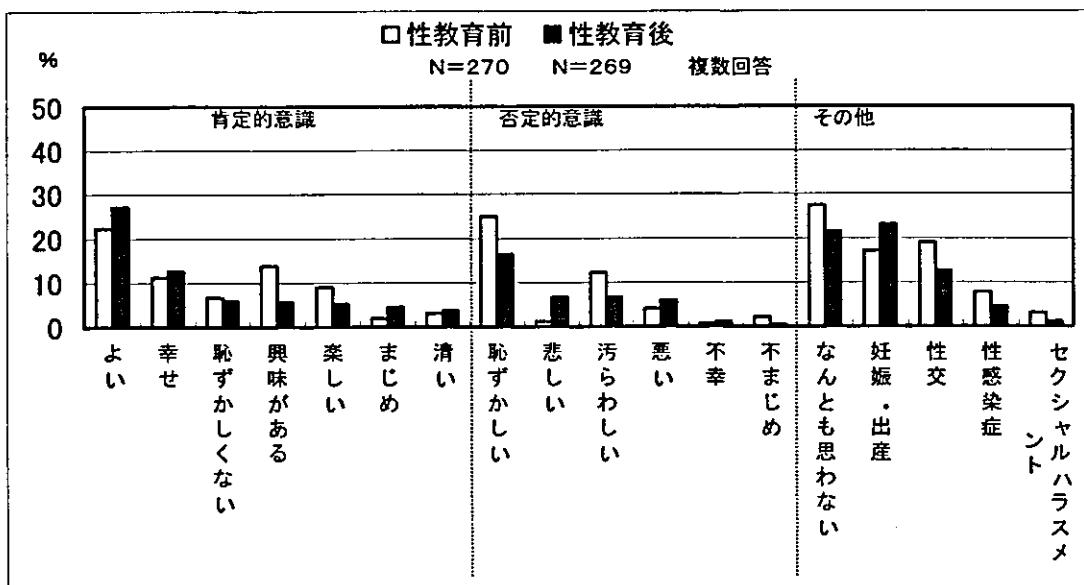


図6 性のイメージ

②あなたは妊娠に対してどのようなイメージをお持ちですかを 11 項目から複数回答で問うた。その結果を図 7 に示す。最も多かったのは「新しい生命の誕生」で、教育前は 146 名 (54.1%)、教育後は 165 名 (61.3%) であった。

③あなたは人工妊娠中絶に対してどのようなイメージをお持ちですかを 14 項目から複数回答で問うた。その結果を図 8 に示す。「怖い」と答

えたものは、教育前 76 名 (28.1%) が教育後 166 名 (61.7%) と増加した。「悪い」と答えたものは、教育前 98 名 (36.3%) が教育後 163 名 (60.6%) と増加した。「悲しい」と答えたものは、教育前 86 名 (31.9%) が教育後 148 名 (55.0%) と増加した。「何とも思わない」と答えたものは、教育前 53 名 (19.6%) が教育後 12 名 (4.5%) と減少した。

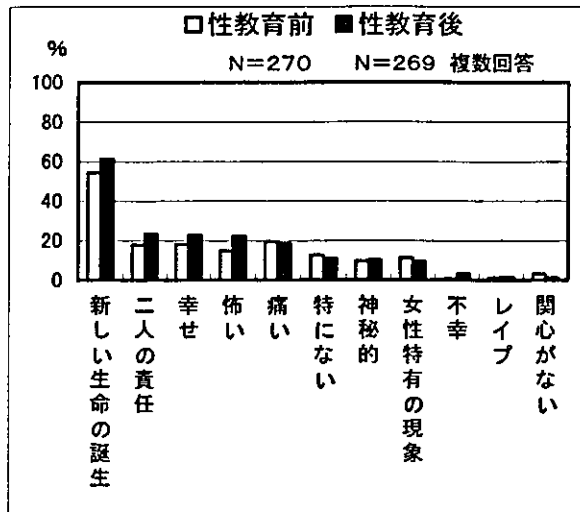


図7 妊娠のイメージ

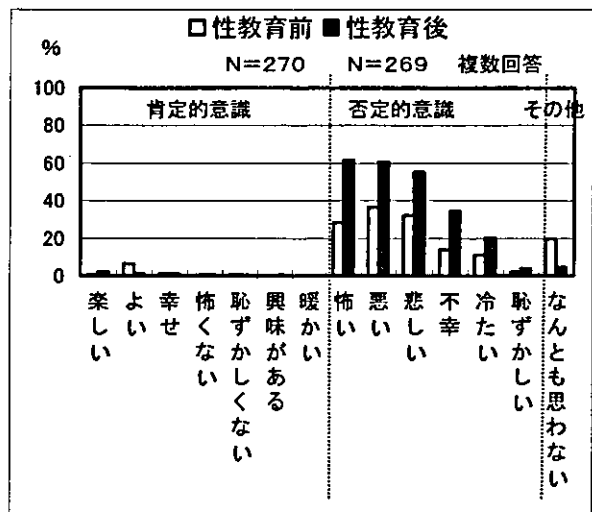


図8 人工妊娠中絶のイメージ

⑤あなたは性感染症を知っていますかを 11 項目から複数回答で問うた。その結果を図 9 に示す。最も多かったのは「エイズ」で 254 名 (94.1%) であった。次に多かったのは、「クラミジア感染症」で 71 名 (26.3%) であった。

⑥あなたは性感染症についてどのようなイメー

ジを持っていますかを 14 項目から複数回答で問うた。その結果を図 10 に示す。最も多かったのは「怖い」で教育前は 149 名 (55.2%)、教育後は 149 名 (55.4%)、次に多かったのは「悪い」で、教育前は 143 名 (53.0%)、教育後 148 名 (55.0%) であった。

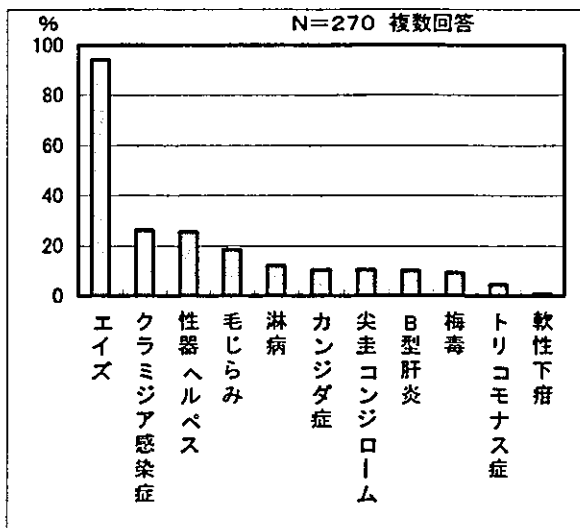


図9 性感染症を知っているか

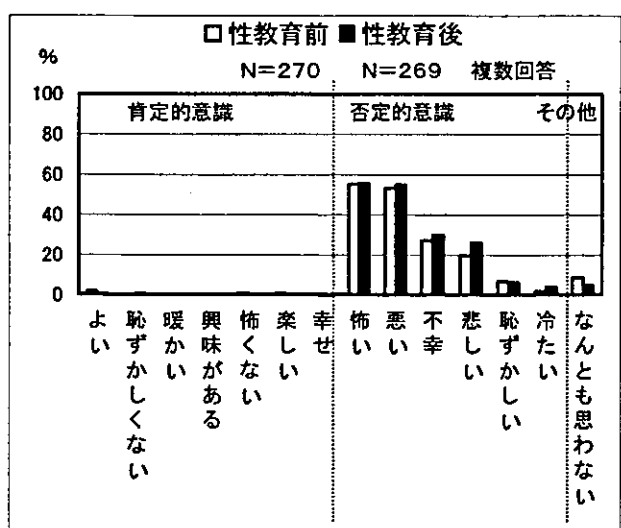


図10 性感染症のイメージ

5. 避妊・性感染症等の意識と対処行動

①あなたは特定の相手と交際する場合どの程度なら良いと思いますかを7項目から複数回答で問うた。その結果を図11に示す。「キスをする」が一番多く、教育前は90名(33.3%)で、教育後は85名(31.6%)であった。「性交をする」が教

育前は64名(23.7%)、教育後は46名(17.1%)であった。

②あなたは避妊の必要性を感じますかを問い、1つを選んでもらった。その結果を図12に示す。「感じる」が教育前は209名(85.3%)、教育後は220名(92.1%)であった。

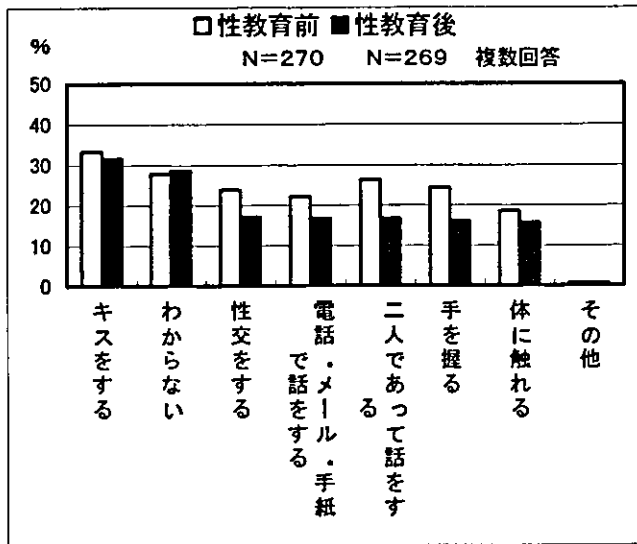


図11 交際をする場合どれぐらいがよいか

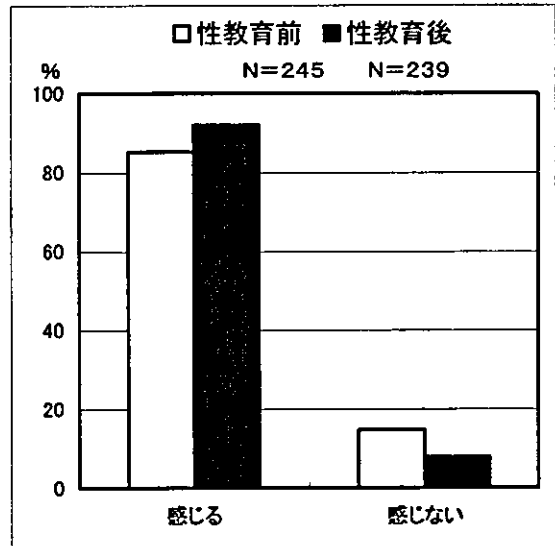


図12 避妊の必要性を感じますか

③あなたは性感染症の予防や避妊について相手と話すことができますかを問い、1つを選んでもらった。その結果を図13に示す。「できる」が教育前は112名(43.2%)、教育後は140名(53.2%)であった。

④あなたは性行為をする相手が避妊しない時、自ら相手に避妊を促すことができますかを問い、1つを選んでもらった。その結果を図14に示す。「できる」が教育前は148名(57.6%)、教育後は180名(69.0%)であった。

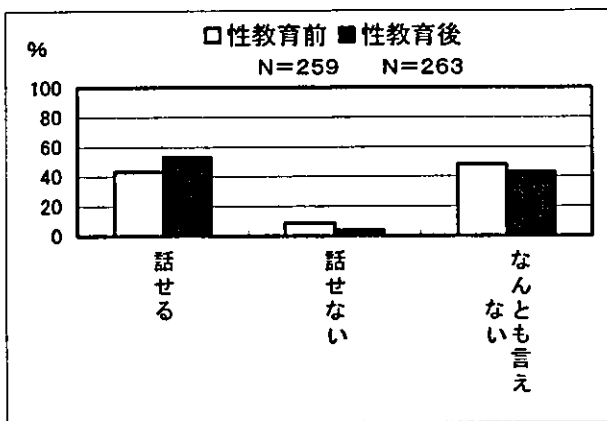


図13 性感染症の予防や避妊を相手と話せるか

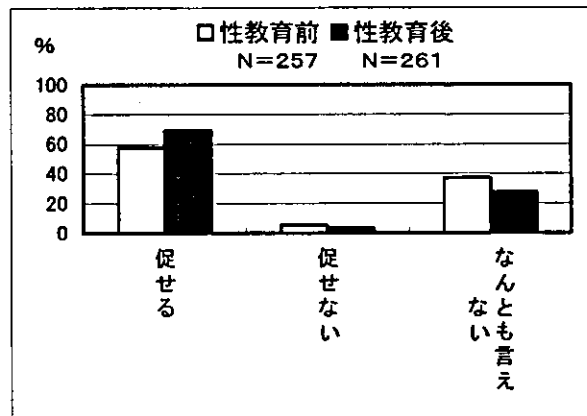


図14 相手が避妊しないとき避妊を促せるか

⑤あなた（パートナー）が今妊娠したらどうするかをどのような行動をとると思いますかを7項目から複数回答で問うた。その結果を図15に示す。一番多かったのは、「友人に相談する」が教育

前は89名（33.0%）、教育後は89名（33.5%）であった。次に多かったのは「病院にいき相談する」が教育前は76名（28.1%）、教育後は89名（33.5%）であった。

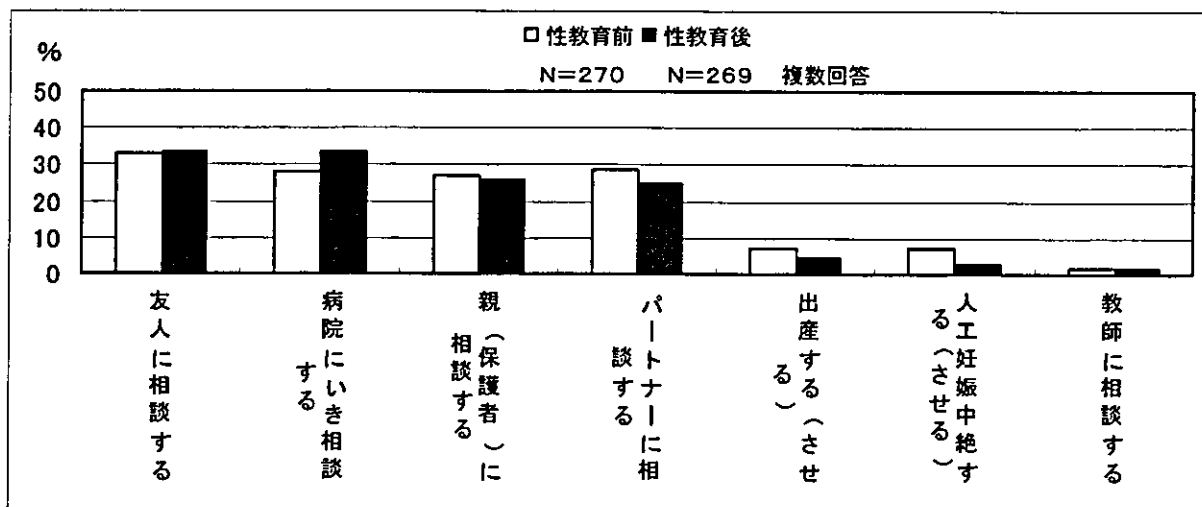


図15 妊娠したらどうするか

6. 性教育前後の知識と効果

①あなたは避妊法、避妊器具について教育前に名前と使い方を知っていますか。教育後に理解できましたかを7項目から複数回答で問うた。その結果を図16に示す。教育後著しく増加したものは、「男性コンドーム」257名（95.5%）、「ピル」199名（74.0%）、「基礎体温法」95名（35.3%）であった。

容を知りたいですかを12項目から複数回答で問うた。その結果を図17に示す。教育後増加したものは、「命の大切さ」で、教育前41名（15.2%）が教育後59名（21.9%）であった。教育後減少したものは、「人工妊娠中絶」で教育前23名（8.5%）が教育後8名（3.0%）であった。「男女交際」で教育前60名（22.2%）が教育後44名（16.4%）であった。

②教育前後にあなたは性についてどのような内

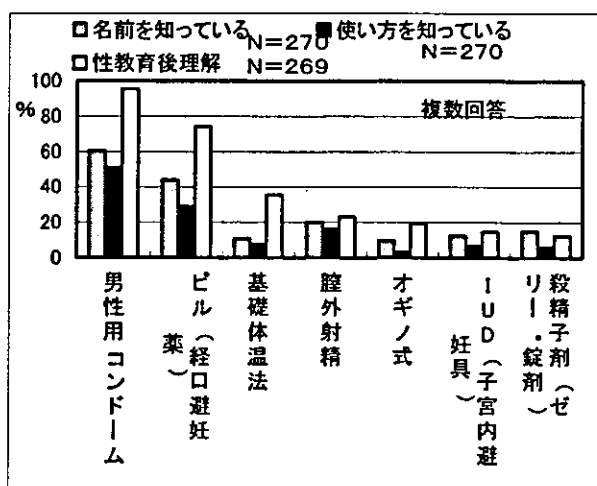


図16 避妊法、避妊器具について理解できたか

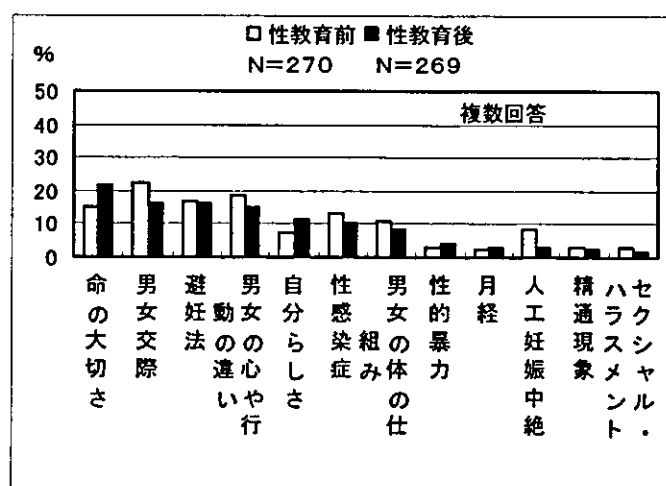


図17 性について知りたいこと

E. 考察

1. 自己、他者への肯定感の性教育前後の変化

A校の生徒は、自分のことが好きと肯定的に捉えている生徒が25.7%で、自尊感情が非常に低く、自分がだめな人間だと思い込んでいる生徒が大半であった。一方、自分のことを大切にしたい生徒が56.1%、相手の気持ちを考えて行動したい生徒が80.7%で、自分のことは好きになれなくても他者からは嫌らわれないという現在の若者気質が伺える。今回「今を大切に生きる」をテーマとして、「いのちの出前講座」を実施した結果、自分のことを大切にしたい、相手の気持ちを考えて行動したいが、教育前に比べて明らかに上昇した。これは今回の教育内容の中で、「性を生きるとは」の項目を設定し、①自分自身をよく生きるためには、自分自身の身体のことを理解し、好きになることである。②相手をよく生かすためには、相手の人生を大切に考え、望まない妊娠や性感染症を防止することである。③新しい命をよく生かすためには、新しい命に対する責任があり避妊が必要であるという、これらの内容が心に響き、生徒が素直に受けとめた結果と考える。鈴木は「命の大切さ出前講座」で、自分が今ここに存在していることをしっかりと見つめさせ、自分を価値ある存在として受け止め、自尊感情、セルフエスティームを高めることが大切である。それが生きる力をはぐくむことにつながると述べている(鈴木せい子, 2001)。今回の「性を生きるとは」の教育内容もこれらのことを考慮して行ったため、生徒が命の大切さや自分自身が生きている価値を考える機会になり、自分や相手を大切にしたいという意識の変化に繋がり、教育効果があったと考える。

2. 性の肯定的イメージ、人工妊娠中絶の否定的イメージへの意識変化

今回の教育によって性の肯定的なイメージで「よい」が増加し、否定的なイメージ「恥ずかしい」「性交」が減少した。これは、教育内容の中の実態をふまえた「10代の性行動の現状」、「人工妊

娠中絶」、「性感染症」、「避妊法」等の正しい知識を得たことが、正しい生き方の理解につながり、性を肯定的に捉えられるようになったと考える。

人工妊娠中絶は否定的なイメージの「怖い」「悲しい」が増加し「なんとも思わない」が減少した。これは、今回の性教育による講義だけでなく、性教育後の「沈黙の叫び」(胎児の中絶場面)のビデオの影響が大きく、人工妊娠中絶の否定的な意識に大きく変化したためと思われる。「沈黙の叫び」のビデオは、人工妊娠中絶を経験した学生心のダメージにも繋がりがかねないので、このことは逆に慎重に使用しなければならないが、今回の教育後の「妊娠」のイメージ変化は見られなかった。生徒が安易に尊い命を中絶し、不幸になりたくないという慎重さを取り戻したのではないかと考えられる。今回のビデオ教材は、リアルな映像を見ることにより、強烈な意識変化が見られたので、荒れている高校には効果的かもしれない。

性感染症ではエイズに比べて、クラミジア感染症の認知度が低く、教育後の性感染症のイメージの変化は見られなかった。このことからクラミジア感染症や他の性感染症の認知度を上げるためには、エイズと同じレベルの講義時間の確保が必要であると考えられる。正しい知識や対処方法を知るためには、理解しやすい講義方法や時間の検討の必要性が示唆された。

3. 性感染症の予防や避妊に関しての相手との会話

今回の教育によって、「避妊の必要性を感じる」が教育後92.1%で、生徒の大半が避妊の必要性を感じている。一方、「性感染症の予防や避妊法を相手と話せる」や「避妊行動を促せる」は教育後約50~70%であった。これは、大半の生徒が避妊の必要性を感じている割には、低い値である。村瀬は、性行動はひとを相手に行われることからその相手に対し自分の思いを伝え相手の行動に影響を与えることが必要となると述べている(村瀬幸浩, 2002)。今回の教育では、約30名の学生が性感染症の予防や避妊について相手と話せるまたは避妊

を促すことができる」と意識変化したことは評価できる。しかし、学生が避妊を必要と考えながらも、性感染症や避妊について相手とうまくコミュニケーションができない学生が多いのは、性行動時に相手に対して「イヤ」、「避妊して」とは言えず、その結果、望まない妊娠に繋がりがねない。これらのことより、今後、性教育において、自分の意思を表現する力や相手と交渉する力を育てていく必要がある。そのためには相手とのコミュニケーションのとり方を学習する演習の企画も重要である。しかし、年1回、50分間の社会教育（医療従事者による教育）では、命の大切さを導く教育には程遠く限界があると考えられる。

F. 結語

A高校1年生に性教育前後に質問紙調査を実施し、性教育後の意識の変化と教育効果を検討した。その結果、性教育によって自己と他者の肯定感は上昇した。性のイメージは肯定的に、人工妊娠中絶のイメージは否定的に意識変化した。92.1%の学生が避妊の必要性を感じながらも、性感染症の予防や避妊について相手と話せる、または相手に避妊を促せるはそれぞれ53.2%と69.0%と低かった。今回の性教育内容においては、「性を生きる」とは」の項目は必須として入れるべきであろう。今後教育内容を充実するためには、更に、性感染症は別項目にして新たな時間を設けることや相手

とのコミュニケーションのとり方の演習項目を検討することが課題としてあげられた。

文献

北村邦夫：なぜ中絶実施率は減少したのか、
<http://www.jfpa.or.jp/02-kikanshi1/609.html>、
2004

厚生労働省：感染発生動向調査、
<http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/youran/data15k/2-11>、2004

村瀬幸浩：思春期の性に関する教育と指導—自己決定の力を育むとは—、周産期医学、32(4):
460-464、2002

鈴木せい子：「生命の大切さ出前講座」に取り組んで、助産師雑誌、55(8):9-15、2001

東京都幼・小・中・高・心障性教育研究：02 児童・生徒の性意識行動調査の結果の概要、
<http://www.jfpa.or.jp/01-topics/021225-2.html>、
2002

十蔵寺新：
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~hhhp/chlamydia/chlamydia-statistics.htm>、2004